

< 公式セットでスタート >

平成 24 年 7 月

今村 逸夫

トラップ射撃に於いて、多くの初心者を見て来ましたが、緩いクレイは初心者にとって弊害が有ると言うのが、何年も前からの私の持論になってきています。

勿論、最初に、銃の持ち方も、射台でのマナーや動き方もおぼつかない状態では、「慣れる」ために緩いクレイが必要と言うのは分かります。そんな状態で速いクレイを撃っても、無駄なだけだと言う話も、なるほどと分かります。

ですから、私は、最初の 500 発は撃つことに慣れ、マナーを覚えるために緩いクレイを撃っても良いけれど、これを過ぎたら、緩いクレイは百害有って一利無し、さっさと速いクレイに移るべきだと言っています。

速いクレイは勿論、公式セットです。そんなのとっても無理だ、当たりっこない、緩いクレイをしっかりと撃って、当たる楽しさを覚えてからでも遅くは無い、当然のようにこのような反論が返って来るでしょう。

でも、そのような従来 의견に従って多くの人が緩いクレイを十分に撃って、20 点を越えることが出来るようになり、そろそろ速いクレイを撃つ資格を得たのではないかと、勇んで速いクレイの射台に行ったところ、なんと 5 枚しか当たらない。ガッカリ落胆して、これはもっと緩いクレイで更にしっかりと当てられるようにしなければと、またまた数カ月精進して、1 日の練習で 20 点以上を 2 回も出せるようになり、今度こそと、速いクレイに挑戦したところ、今度はもっと悪くて 4 枚しか当たらない。

前よりも落胆の度合は大きく、より深刻なダメージを受け、自分はクレイ射撃には向いていないのではないかと、射撃場に行く気持ちも萎えてしまった。

こんな例が数多く有り、ここまでになると、もうどうしても速いクレイの射台に移ることが出来なくなってしまいます。何故こうなるのでしょうか。

それは一言で言ってしまうと、緩いクレイにすっかり慣れてしまったからなのです。体の動かし方、銃の振り、引金の引き方、目、など全てが緩いクレイに慣れてしまい、練習すればするほど、緩いクレイにしか対応出来ないようになってしまっているからなのです。こうなれば、緩いクレイでどんなに高得点が出せるようになったとしても、速いクレイに行けば、最初と同じように 5 枚程度しか当たりません。

5 枚と言うのは、ストレートが 3 枚、あとはまぐれの 2 枚くらいで、その他は目も体も銃口もクレイに全く付いて行くことが出来ません。声を出して何もしないでそのままなので、どうしたのかと思えば、出たクレイが全く見えておらず、銃を振り始めることさえ出来ないというのも何度も有ります。

緩いクレイになら当たる自信が有るので、そっちに舞い戻り、こうなるともう二度と速いクレイは怖くて撃てなくなってしまいます。

当店の公式セット射撃会は、「みんなで撃てば怖くない」を合い言葉に、速いクレーに行かれなくなってしまった人に是非来てもらいたいと始めた会なのです。

勿論、全くの初心者も歓迎です。考えてもみてください。初心者にとってはクレーが速かろうと遅かろうと関係ないのです。全く当たらなくてもそれが当たり前、初心者なのだからと納得できますので、落胆もダメージも有りません。

目も体も、あれに慣れればいいんだ、なんとか速いクレーに対応しようとして夢中になります。これが良いのです。じっくり狙い込んで引金を引くなどする暇が有りません。私も、とにかくクレーに向かって皆と同じようなタイミングで引金を引けば良いんだよとアドバイスし、そんなんでも当たるのか？ まあ、やぶれかぶれだ、やってみよう・・・とやっている内に、自分でもびっくりの素晴らしい当たりに出会います。なんだ、こんなんでも良いのか、と思えばしめたものです。同じようにやっている内に、また、当たりが出ます。二度も当たれば、なんとなくタイミングを掴んでしまいます。

こんな感じで当たりがどんどん出て、教習射撃でしか撃ったことのない全くの初心者が公式セットでなんと9枚も当たってしまったなんてことが有りました。

これに比べて、素晴らしいまぐれ当たりなど全く出ないのがある程度以上の弾数を緩いクレーで撃った人達なのです。クレーを追いかけて、よ～～く狙って撃とうとしますので、どうしても遠くなってしまいます。その遠いのに対して、ドンドンと二連続射撃で当てようとするので、無駄弾ばかりになります。

このような人には、一発しか弾を入れず、ゼロ点でも良いから「狙わないで」撃つようにと言います。撃つタイミングは、とにかく、「出来るだけ早く」と言うことになります。

「ゼロ点でも良いから」と覚悟を決めていただかないと、狙わないで引金を引くことなど出来ません。ここに、「みんなで撃てば怖くない」射撃会の意味が有るのです。

恥も外聞も捨てて、当たりっこ無いと思うようないい加減な狙い方で、こんちくしょうとやぶれかぶれで撃ってみることができればしめたものです。その内に素晴らしいまぐれ当たりが出ます。その時に私は間髪を入れず、「そう、それぞれ！ それなんだよ。」と言います。

ここからがスタートになります。このスタートが出来れば、やっとその人のクレー射撃が始まることになるのです。

どうぞ、遠方からでも、私の顔など知らなくてもかまいません。いきなり現場へ来ていただければ、どなたにでも参加していただくことが出来ます。

一緒に、クレー射撃を楽しみましょう。